

当事者自助グループとエンパワードSST

新潟県長岡地区保護司会 品田 秀樹
NPO法人 セカンドチャンス！代表 才門 辰史

第24回SST全国経験交流ワークショップ in 東京では「面接に活かすひとりSST～矯正教育から更生保護へ、そして地域へ～」をテーマとして、少年院、刑務所、更生保護施設、保護司面接、医療観察での実際のSSTを再現しながら各機関の連携とひとりSSTの有用性について意見交換することができました。

分科会が終わり見えた道標は、いつものことながら「当事者にとって本当に役に立つSSTとは何か」ということでした。

再犯防止に向けた総合対策での法務省、厚生労働省等の行政的連携、協力、関係者の努力にもかかわらず刑法犯で逮捕されるなどした検挙者の再犯者率は過去最高の48.7%で20年連続の上昇です。(2016年犯罪白書)65歳以上の出所者の4人に1人弱が2年以内に罪を犯して刑務所へ再び入所しています。「どうせ自分なんか」という自尊心の低さによる孤立感が更生意欲の阻害要因の一つになっているとも言われます。

「セカンドチャンス」は交流会、全国合同合宿、少年院訪問を活動の柱にして当事者がある経験と希望を分かち合い、仲間として共に成長することを目的として2001年1月に設立された少年院出身者による自助グループの全国ネットワークです。その活動のベースには1997年設立されたスウェーデンの自助組織KRIS(クリス)とべてるの家の当事者研究の影響があります。

セカンドチャンス発行の「陽はまた昇る」には希望から回復、再生へと進むための当事者の具体的な悩みが10項目でまとめられ、希望の実現へ向けての鍵を探す内容となっています。リバーマンは「SSTの醍醐味は希望の扉を開けること、リーダーは、鍵はどこにあるか探すことが必要だ」と述べています。

第23回学術集会 in 札幌の大会テーマは「すべての人の尊厳を支えるSST」です。このワークショップではセカンドチャンスの活動の紹介、当事者自助グループ活動において自己肯定感、自己効力感、自尊心を高め元気になるためのエンパワードSSTについて意見交換を進めたいと思います。